



松林小だより

平成31年1月8日
学校便り No.12
羽村市立松林小学校

東京都羽村市羽4122-2 電話 042-554-7800



一生懸命な力

校長 瀬戸 隆幸

明けましておめでとうございます。旧年中は、保護者・地域の皆様には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。昨年11月に、保護者の皆様には「学校評価アンケート」にご協力いただきました。ご多用中にもかかわらず、ご協力くださりありがとうございました。皆様にご指摘いただいたことや教職員のアンケートなどをもとに反省・評価をして、来年度の教育課程を編成してまいります。学校は組織ですので、どうしても意見の多い方を選択していくようになりますが、少数意見であっても、それが子供たちにとって良いことであれば、校長のリーダーシップのもと、計画に取り入れ実行してまいります。毎年同じように思える松林小学校の教育活動も、少しずつ変わっているということをご理解ください。本年も本校の教育活動に対し、変わらぬご理解とご支援をいただけますよう、よろしく願い申し上げます。

さて、話は変わりますが、毎年お正月に行われる箱根駅伝についてです。今年は青山学院大学が大会5連覇を達成できず、東海大学が悲願の初優勝を果たしました。青山学院大学は、出雲駅伝、全日本大学駅伝ともに完勝し、史上初となる2度目の学生駅伝3冠と3校目の箱根駅伝5連覇を狙っていました。もちろん、どの大学の選手も、優勝を目標に一年間努力を積み重ねてきたことでしょう。昨年総合2位の東洋大学が、今年も往路優勝を飾りました。この時点でトップの東洋大学と5分30秒、2位の東海大学と4分16秒の大差をつけられ、6位と出遅れました。原晋監督が暗い表情で箱根の旅館に入ってくると、先に到着していた6区の小野田勇次選手は、「監督、元気を出してください。僕、明日の残り3kmを死ぬ気で走りますから、見ていてください。」と声を掛けました。翌朝、宣言どおりに魂の激走を見せ、57分57秒の区間新記録をマークし、5位に浮上しました。7区の林奎介選手も区間賞で、2校を抜いて3位に浮上しました。8区の飯田貴之選手も区間2位の力走、9区の吉田圭太選手も区間賞で襷をつなぎました。最終10区の鈴木隼人選手に襷が渡った時、首位の東海大学とは3分43秒差、2位の東洋大学とは8秒差でした。スタートしてすぐに東洋大学を抜き2位に浮上した鈴木選手は、ペースを緩めることなくトップを目指しました。結果は、復路優勝を飾ったものの、逆転の総合優勝は逃しました。しかし、アンカーの鈴木選手は、笑顔でゴールテープを切り、出迎えた仲間も笑顔で拍手を送り、その努力を称えました。

どうしてそんなに必死になれるのか。それは、今年の頑張りが、来年に、さらにはチームの未来につながるからだそうです。一つでも順位を上げる、あるいは1秒でもタイムを縮める努力が未来につながるからこそ必死になれるのです。あきらめたらそこで終わり。無駄な努力は一つもない。たとえ結果が伴わなくても、努力した分だけ自分の力となっていくのです。決してあきらめずに努力するからこそ未来が開けるのです。箱根駅伝の放送を見ながら、そんなことを改めて考え、感動しました。

松林小の子供たちにも、自分の目標に向かって、決してあきらめることなく最後まで努力し続けられる「一生懸命な力」を身に付け、大きく成長していつてもらいたいと願っています。少しでもその手助けとなるよう、保護者・地域の皆様に支えられながら教職員が一丸となって教育活動を推進してまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。